

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

夏秋果菜類における病害の発生状況と防除対策（技術情報第7号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

8月11日以降の長雨の影響により、夏秋果菜類の病害の発生量が増加しています。また、向こう1か月の降水量は平年に比べて多い予想であり、今後も夏秋果菜類の病害にとって好適な気象条件が継続し、病害の発生量がさらに増加することが懸念されるため、ほ場内の発生に注意し、防除対策を徹底しましょう。

1 現在の発生状況

- (1) 県内の中山間地域の夏秋トマト栽培ほ場で実施した8月の巡回調査では、灰色かび病は発病株率 茎葉 19.0%（平年 19.5%）、果実 3.7%（平年 0.1%）で平年比やや多、葉かび病は発病株率 30.0%（平年 7.4%）で平年比多、すすかび病は発病株率 39.7%（平年 47.3%）で平年並、うどんこ病は発病株率 19.7%（平年 0.5%）で平年比多の発生であった。また、一部のほ場では、これらの病害の多発生が確認された（表1、図1～4）。
- (2) 防除員からの報告によると、各夏秋果菜類における主な病害の8月の発生状況は表1のとおりであった。

表1 各夏秋果菜類における主な病害の8月の発生状況

作物名	病害名	発生状況（平年比）	
		巡回調査	防除員報告
夏秋トマト	灰色かび病	やや多(＋)	多(＋)
	疫病	並(±)	多～並(＋)
	葉かび病	多(＋)	並(±)
	すすかび病	並(±)	並～やや少(±)
	うどんこ病	多(＋)	やや多(＋)
夏秋ナス	灰色かび病	－	やや多(＋)
	すすかび病	－	並～やや少(±)
	うどんこ病	－	やや多～並(±)
夏秋キュウリ	べと病	－	やや多(＋)
	うどんこ病	－	並(±)
	褐斑病	－	やや多(＋)
	斑点細菌病	－	やや多(＋)

(3) 8月11日以降の長雨の影響により、上記病害の他、各夏秋果菜類において、灰色かび病、疫病、炭疽病などの糸状菌による病害や軟腐病などの細菌病の発生の増加が想定される。

## 2 今後の発生予想

福岡管区气象台が8月19日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多い予想であり、今後も夏秋果菜類の病害にとって好適な気象条件が継続することから、病害の発生量が増加することが懸念される。

## 3 防除対策等

- (1) 密植や過繁茂を避け、通風採光を良くする。ハウス栽培では換気を図り、多湿を避ける。
- (2) 発病葉等や被害残さは伝染源となるので、ほ場外に持ち出し処分する。
- (3) 病害によっては肥料切れや樹勢低下により発生が助長されるため、適正な肥培管理を行う。
- (4) 病害が多発してからの防除は困難となるため、予防防除を重点に行う。
- (5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

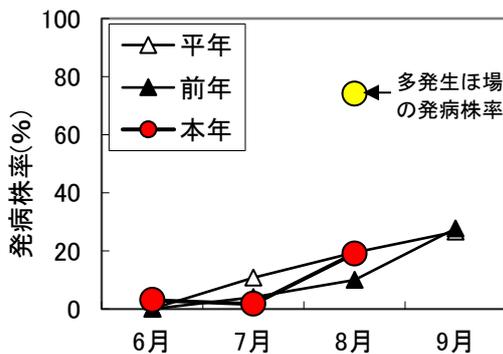


図1 灰色かび病の発病株率(茎葉)の推移 (夏秋トマト)

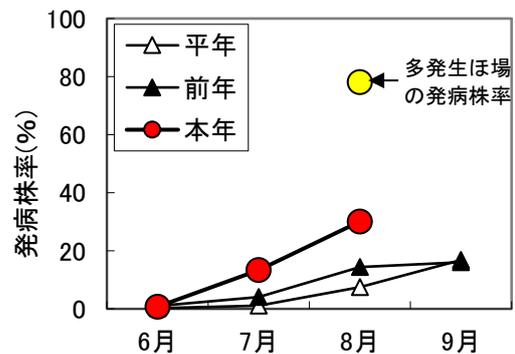


図2 葉かび病の発病株率の推移 (夏秋トマト)

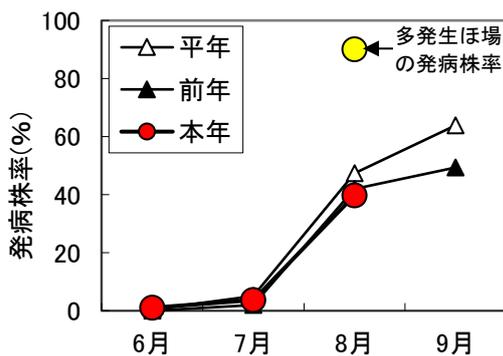


図3 すすかび病の発病株率の推移 (夏秋トマト)

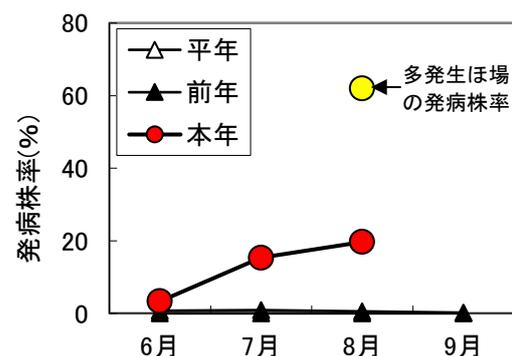


図4 うどんこ病の発病株率の推移 (夏秋トマト)

熊本県病害虫防除所

(熊本県農業研究センター 生産環境研究所

予察指導室) 担当：中村、中井

TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493